

家父長制における結婚と家族に対する中国のフェミニストの抵抗における
怒りのアンビバレントな影響について

立命館大学大学院社会学研究科博士後期課程の Yang Yushuang (ヨウ・ウソウ)さんは、政治的側面と私的側面が重なり合う自己組織化されたオンライン空間で活動するオンライン・フェミニストに着目し、現代中国における家父長制結婚において女性が劣った立場にある家族との関係、女性の社会的地位の低さに疑問を呈するオンライン・フェミニストの怒りを分析しました。その結果、フェミニストが不公平な立場に反対し、相手の誹謗中傷に恐れることなく立ち向かうとき、怒りは変革的な力を持つことが示されました。本研究成果は、2024年6月23日に、雑誌「Social Movement Studies」に掲載されました。

< 研究成果の概要 >

感情は社会運動の出現、展開、終焉に重要な役割を果たしています。多くの研究者は、怒りが運動への参加を促進する最も推進力のある感情の一つであると主張していますが、一部の研究者は、社会運動における怒りのアンビバレンスを示しています。これまでの研究では、感情が社会運動においてどのような役割を果たすのか、その背景は十分に解明されていませんでした。本研究は、政治的側面と私的側面が重なり合う自己組織化されたフェミニストのオンライン空間に着目し、現代中国における家父長制結婚において女性が劣った立場にある家族との関係、女性の社会的地位の低さに疑問を呈するオンライン・フェミニストの怒りを分析しました。本研究は、社会運動における感情に関する先行文献から得られた知見と感情言説分析を用いて、(1)怒りが構造や敵手に向けられる際の変革的特徴、(2)怒りが他の感情とずれて変革力が抑制されるという観点から考察することを目的としています。その結果、フェミニストが不公平な立場に反対し、相手の誹謗中傷に恐れることなく立ち向かうとき、怒りは変革的な力を持つことが示されました。さらに、フェミニストが感情的な葛藤にうまく対処し、結婚に反対する立場のエンパワーメントの側面を強調すると、フェミニストのアイデンティティが強化されます。

< 研究の背景 >

社会運動において人々の怒りは重要な役割を果たします。怒りは傍観者を抗議活動に参加させ、現状を変えるために「何かをする」ことを促します。怒りはマイノリティーのグループが恐怖を乗り越え社会に向けて自分たちの主張を発信する動機となります。とりわけフェミニスト運動では、女性の怒りを表現することは伝統的なジェンダー規範を打破し、主張の異なる相手に対する集団行動への足がかりとなります。しかし、人々の怒りは社会運動で何らかの論争を引き起こすこともあります。社会運動の参加者は怒りを誰に向けるべきか意見が分かれることがあります。このことは感情の結果が決定的なものではないことを示唆しています。

これまで、社会運動の研究者は、感情が社会運動の出現、発展、分裂、消滅において普遍的であると論じています。しかし、感情の普遍性は社会運動の研究に対して最小限の貢献しかしていません。多くの具体的な感情に関する議論とすべての感情を包括する全体的な記述との間のギャップを埋めるために、Jasper (2018)は感情のタイポロジーを提案しています。このタイポロジーには反射的な感情、欲求、気分、

感情的なコミットメント、道徳的な感情が含まれており、これらの感情タイプの相互作用から生じる結果を
探求するのに役立ちます。

<研究の内容>

中国社会における家族と結婚に関するトピックの可視性を考慮した上で、この研究は中国のオンライン・フェミニストグループを調査し、関連する投稿を分析しました。本研究は「感情言説分析」アプローチ (Katriel, 2019) を使用しました。言語は感情体験を形成する上で重要な役割を果たすため (Lutz & Abu-Lughod, 1990)、感情の言語を研究することは、特定の「感情の配置」に光を当ててのに適しています。これは「自己アイデンティティ、社会的関係、および道徳的感性の論理的構築と交渉を語ってくれる」 (Katriel, 2019, p.58) ものです。本研究は、フェミニストの (1) 感情に関する論述、(2) 感情的な論述、および (3) 感情を喚起する論述を分析しました。

<論文情報>

論文名 : Ambivalent effects of anger in Chinese feminists' refusal to patriarchal marriage and family

著者 : Yang Yushuang (ヨウ・ウソウ) (立命館大学大学院社会学研究科博士後期課程)

発表雑誌 : Social Movement Studies

掲載日 : 2024年6月23日

DOI : 10.1080/14742837.2024.2369603

URL : <https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/14742837.2024.2369603>

以上

●本件に関するお問い合わせ先

(研究内容について)

立命館大学大学院社会学研究科 Yang Yushuang (ヨウ・ウソウ)

Email.gr0409vs@ed.ritsumei.ac.jp

(報道について)

立命館大学広報課 担当:名和

TEL.075-813-8300 Email.r-koho@st.ritsumei.ac.jp